

韓国で、「わたし」と向き合いながら

長尾有起 (韓国基督教長老会ミッション・コーワーカー)

私は 2015 年からソウルで暮らしています。1 年ほど前のことでした。ある高齢の日本人男性が、日本は過去に韓国の方たちに対して本当に酷いことをした、私たちは謝罪をしなければならない、と韓国を訪ねてこられ、少しばかりお話をする機会がありました。その方の韓国との関わりについてお聞きし、感銘を受けていたのですが、終盤にさしかかり、このようなことを質問されました。「韓国の方々は温かく、素晴らしいと思うが、同時に、大韓航空の飛行機がナツ一つで空港に戻ったり、セウォル号の沈没事件の際には船長が一番先に逃げ、多くの人犠牲になった。日本の場合は当然、船長は最後まで救助をする。なぜ韓国はこうなのか。」

みなさんは、この言葉を聞いて、どうお感じになるでしょうか。私は愕然としました。日本が過去に行った蛮行を申し訳ないと反省し、韓国に実際に足を運ぶような人でさえ、このようなく差別意識>を持っているのか、と。私は驚きと悲しみと怒りで混乱しながらも、このように答えました。「ご指摘くださった二つの事件はどちらも驚くべき内容ですね。どちらの事件も、日本から出る批判とは比べものにならないほど、韓国国内で非常に強く批判されました。また、最近（お話しした当時）カルロス・ゴーンが逮捕されたことが話題になっていますが、それによって『これだからフランス人は』とは思いませんね。彼がフランス人代表ではないと知っているからです。しかし、韓国に対しては、韓国のある人に何か一つでも落ち度があれば、韓国全体が悪いかのように思ってしまう、そのような偏見が既に私たちの中にあるのです。」

この「偏見」は、この方だけが持っているものではありませんし、この方が高齢だから持っているのでもありません。現在の日本社会、政治家や、メディアや、そして私たち日本人の中に蔓延しています。この方にはここまではっきり申し上げられませんでした。これは「偏見」というよりも、「植民地主義に基づく差別意識」です。かつて侵略し、植民地として朝鮮を「日本のもの」とし、そこに暮らす人びとを自分たちよりも劣った存在として扱ってきた意識が、「日韓併合」から 100 年以上経った今でもなお、私たち日本人の中に巣くっているのです。

ここ数カ月、日本のマスコミの「韓国叩き」はますます酷さを増しています。私たちの中にそもそも差別意識があり、さらにテレビも新聞もこぞって「韓国が悪い」と言っていたら、あたかもそれが真実かのように思えてくることでしょう。「韓国の人たちは感情的だから」「何度も謝ってるのに、なぜ韓国はいつまでも謝罪を要求するのか」「韓国人は日本人を嫌いなんでしょう？」これらはみな、無知と、偏見と、差別意識から来ているものです。この文章をお読みになり、もしご自分が攻撃されているとお感じになるのであれば、残念ながらあなたもまた、この「植民地主義的差別意識」を内在しているのです。しかし、今ならまだなんとか間に合うはずです。手遅れになる前に。一番近くにいる隣人と、本当に仲良くなるために。まずは自分の中の差別意識に気づき、それを変えていきませんか？ 自分自身に向き合うことはとても恐ろしいことですが、自分の過ちを正当化するよりも、それを乗り越えて新しい友人に出会うことの方がずっとうれしく、幸せなことだと韓国で生活しながら実感しています。